

人権啓発センター だより

平成28年5月

No.29



雑 感

「やれば出来る」という言葉がある。私も生徒に自信を持たせるために「君は出来ない子ではなく、やれば出来る子だ」ということをよく言ってきた。

しかし、社会生活の中では、努力しても成果が形として出ないことも多く、「やれば出来る」とは必ずしも言えない現実がある。私たちは「やっても出来ない」時、深い挫折感や自信喪失に陥り、再チャレンジの意欲すら失ってしまうこともある。

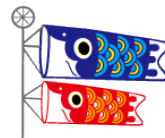
あるテレビ番組で、坪田塾の坪田信貴塾長が「子どもは、やっても出来ない時もある。しか

し、やったら必ずその子なりの成長がある。その成長したことを褒めて、自信をもってもらい、次につなげている。」という意味のことを言っておられた。形として現れた成果よりも、子どもの心の成長に注目している。そのように評価された子どもは、失敗しても挫折感を持つことなく、再チャレンジの意欲を持つだろうなと感じた。

この坪田塾長の「やれば、必ず成長がある」という言葉は、何か取り組む時に、背中を押してくれる言葉であると思う。

(事務局長 中山)

人権あれこれ



「同和問題を知らない」との回答 20代が30.5%（内閣府調査2012年）

昨年は同和对策審議会答申から50年を迎える節目の年であった。

2002年と2012年の県民意識調査を比較すると、「同和地区や同和地区の人ということを気にしたり、意識したりすることはない」との回答は、7.3ポイント増加している。

しかし、実際にこの一年間同和問題の研修を担当して、何か心に引っかかるものがあった。特に若年者の研修では以前のような重苦しい雰囲気は見られないものの、あまりにもあっけらかんな発言があったり、同和問題を全く知らない参加者がいたり大きく様変わりしたように感じる。

内閣府調査（2012年）でも「同和問題を知らない」との回答が20代で30.5%を占めていると

いう結果が出ている。確かに日常生活の中やマスコミで同和問題が話題になることはほとんどない。以前のように同和对策事業が行われている様子を目にすることもない。

しかし、結婚や就職などの人生の節目の時や土地購入などの利害が直接関わった際に部落差別が見え隠れする。けっして同和問題は解決していない。ますます差別が潜在化し、見えにくくなっているのが現実である。

同和对策事業の背景や経過を含めながら、再度原点を学ぶ研修の充実が必要であると痛感している今日この頃である。

(研修講師 川崎)



一押し本

じんけんライブラリー

当センターのホームページにある「じんけんライブラリー検索」で「災害と人権」を指定して検索すると33冊の情報が表示されます。すべて東日本大震災後に出版されたものです。先月起きた「熊本地震」を踏まえ、もう一度これらの本を手にしてみませんか？ほんの一部ですが紹介します。

☆『発達障害児者の防災ハンドブック～いのちと生活を守る福祉避難所を～』

『重症児者の防災ハンドブック～3.11 を生きぬいた重い障がいのある子どもたち～』（クリエイツかもがわ）

☆『男女共同参画・多様性配慮の視点で学ぶ防災ワークブック～地域・支援団体に使える！基本知識の解説とワークショップ教材8～』

（減災と男女共同参画研修推進センター）

☆『高校生、災害と向き合う 舞子高等学校環境防災科の10年』

（岩波ジュニア新書）



（企画研修課 宮田）



ちょっといい話

中国残留日本人孤児二世として、中国でも日本でもいじめられた女の子が苦難を乗り越え日本一の清掃職人となった。世界一清潔な空港である羽田空港で働く彼女の様子が、NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」で2回も放映された。

「清掃」と「掃除」の違いは？似ている言葉で、同じように使っていることもあるが、両者はまったく違う。掃除は「家事」であるが、清掃は「仕事」である。掃除は自分や家族が満足すればOKなのに対して、清掃は「品質」が要求される。さまざまな道具や機械、洗剤などを使い分け、すみずみまでに気を配り、清潔な環境を維持するのが清掃員である（掃除員とは言わない。）おもてなしの心でお客さまの視点に

立って作業すること。これが「清掃」である。「清掃員」である以上、プロの仕事をしなければならない。

偶然テレビ放映をみる機会があり、感動した。彼女の著書もあらためて熟読した。彼女にかけられた「新津（にいつ）さんの仕事は心で磨き、心を磨く仕事なんだね。」という言葉。まさに「清掃はやさしさ」である。

『清掃はやさしさ～世界一清潔な空港を支える職人の生き様～』

新津春子著／ポプラ社より

（研修啓発課 山本）



新人権パネルの紹介

新しく、「あなたは大丈夫？ 考えよう！ インターネットと人権」のパネルを製作しました。



年々増え続けているインターネット関連の事件。パネルの内容は、インターネットの利用に際して注意すること、問題が起きた時の相談窓口及び対処方法などをまとめたものです。学校や自治体のイベントなどでぜひご活用ください。

テーマ: インターネットによる人権侵害
規格(サイズ): 横 52cm×縦 72cm
枚数: 10 枚



当センターでは、無料で人権啓発パネルの貸出をおこなっております。

啓発パネルには、ほかにも「災害と人権」・「犯罪被害者等の人権」・「断固拒否せしめ同和行為」・「ハンセン病ってなあーに？」等、計 14 種類をご用意しています。

詳細については、当センターホームページの「啓発パネルご利用の方へ」をご覧ください。もしくは、最終ページ下方にある当センターまでお問い合わせください。

(企画啓発課 佐伯)

Information お知らせ



事業・イベントの紹介

平成 28 年度人権ふれあい支援事業

高知県内の市町村やNPO、ボランティアグループ等の民間団体が、人権意識の普及・高揚のため実施する講演会、研修会、交流会等の経費の一部を選考のうえ支援します。

- 募 集 期 間：平成28年6月1日（水）～6月15日（水）
- 事業実施期間：支援決定日～平成29年2月28日（火）
- 支 援 金 額：支援対象経費の80%以内、上限20万円
- 応 募 方 法：必要書類の提出

※実施要領や申請様式はホームページからダウンロードできます。
詳しくは、下記へお問い合わせください。

平成 28 年度人権啓発研修ハートフルセミナー in 室戸

上映会&講演会「こどもこそミライーまだ見ぬ保育の世界ー」

◆日 時：2016年5月29日（日）13時～15時45分（開場：12時20分）

- ・13時～「子どもにわか」上演

「江戸時代から続く伝統芸能「佐喜浜俄」を、子どもたちが愛嬌たっぷりに演じます。」

- ・13時30分～「こどもこそミライー」上映（84分）

「子どもを主役とした、子どもに寄り添う独自の幼児教育を実践する3つの園の日常を追った感動の子どもドキュメンタリー。」

- ・15時15分～ 筒井勝彦監督講演

「1962年高知県生まれ。ドキュメンタリーからドラマまで、ジャンルを問わず様々な映像作品を制作・監督する。日本映画監督協会会員。」

◆会 場：室戸市保健福祉センターやすらぎ内「夢ひろば」（室戸市領家87）

◆参加費：無料。定員530名。申込み不要。

◆主 催：高知県・（公財）高知県人権啓発センター・室戸市

◆お問い合わせ：室戸市役所人権啓発課

電話 0887-22-5115

Eメール：mr-010800@city.muroto.lg.jp



問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

E-mail：center@kochi-jinken.or.jp

HP：http://www.kochi-jinken.or.jp